愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	ビジネスプランニング		
担当者(Instructors)	榎澤 祐一	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択
			実務家教員科目(Pro teacher course)

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

産業構造の転換や企業間競争の激化に伴い、変革スピードを求められる企業では、新規事業開発の必要性が従来以上に高まっています。つまり、ビジネスの企画・立ち上げは、今後多くの人にとって必要なスキルとなると考えられます。そこで、この授業は企業での新規事業立ち上げ（企業内起業）を前提とした企画スキルの装着を目的とし、ビジネス（事業内容面、採算面）の計画技法と、その内容を経営層に提案するための事業計画書作成の技法を学びます。履修にあたっては、小中学校の算数・数学（割合、1次関数）、簿記（損益計算書の読み方）、Excel・PowerPoint操作初歩の技能が必要となります。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	履修者はビジネスプラン構築のための技法と、事業計画書作成の手法を学んだ上で、オリジナルの事業計画書を毎回の授業内容に応じて徐々に作成し、節目の回で全体に発表します。また、事業計画書の各要素が必要な背景についても、事例を引いて紹介します。学修状況により最大７回程度メディア授業を実施する予定です。
当該科目と実務との関係(Relationship between cource and practice)	音楽・映像ビジネス関連で、新規事業部門の事業管理、事業部門の立ち上げ、M&Aの実行、事業会社の設立を経験しています。また、現在も新規事業に従事しています。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	導入	「ビジネスプランニング」とは何か。本講義を履修するにあたって必要なスキル	□
第2回	ビジネスの着眼法【国語編】	新規事業の参入分野についての着眼法	□
第3回	コストと価値のバランス【国語編】	新規事業で必要になるコストと提供価値のバランスの取り方	□
第4回	利益モデルの構築【国語編】	利益を安定的に得るための価格設定の構築方法	□
第5回	戦略立案【国語編】	ビジネス戦略の構築方法	□
第6回	販売企画【国語編】	売上の継続的な計上や成長に必要な販路、宣伝、販売促進の計画	□
第7回	事業システムとバリューチェーン【国語編】	自社だけでなく、取引先をも含めたビジネスの各所の役割の図式化	□
第8回	市場参入の意義【国語編】	企業内起業における市場参入の意義（なぜその企業が該当の新規事業に取り組むのか？）についての説明責任	□
第9回	売上計算【数学編】	売上計算の実務的な方法	□
第10回	売上予測【数学編】	売上予測の実務的な方法	□
第11回	コスト計算（変動費）【数学編】	変動費に関するコストの計上方法	□
第12回	コスト計算（固定費）【数学編】	固定費に関するコストの計上方法	□
第13回	損益分岐点の計算【数学編】	損益分岐点の計算方法	□
第14回	ビジネスプランの表現技法	エレベーター・ピッチから事業計画書まで様々な方法がある事業計画の表現技法の紹介	□
第15回	復習とテスト	本科目での学びの復習と、テストを通じた技法や手法の知識定着化	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事業計画書の作成（2時間程度）。事業計画書の発表の練習（1時間程度）。講義や課題実施のための数学的知識（高校「数Ⅰ」・「数A」まで）の理解が不十分であった場合の自主的な復習（1時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題は授業内課題が中心です。次回講義で履修者と議論しながらフィードバックします。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2021地域ビジネスDP2	経営者が新規事業の実施可否を判断することが可能かつ、従業員が新規事業を実行する際の指針となり得る資料を作成し、これを十分に説明することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			25%	75%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

「授業内試験」は択一式問題による出題です（持ち込み可）。「その他」については、各回の課題として事業計画書の一部分を作り上げ１つの事業計画書を第13回課題時点で完成させますが、その評価です。完成した事業計画書を第13回時点で評価するものではなく、各回ごとに課題の出来栄えを評価します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	ありません。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		